

The Washington Post

Tough choices follow in wake of invasive species

困難な選択が外来種の軌跡の後から続いている

By Juliet Eilperin

Washington Post Staff Writer

Sunday, January 31, 2010; A07

どちらがより悪いか？五大湖からミシシッピ流域まで数百万のドル分の商品を出荷するために使われる水路の2つの閘門を閉じる？または、年に70億ドルにのぼる中西部の水産業を支えている在来種の魚類を食品供給から枯渇させる、貪欲なアジア鯉(Asian carp)をなすがままにさせるか？

そして、エバーグレーズの貴重な生態系を消滅させているビルマニシキヘビ(Burmese python)と他の「獲物を絞め殺す大ヘビ」(constrictor snakes)によって生じた被害に、あなたは、どのように値段を付けるか？

外来種(長く、環境的な絶望の原因であった)は、それらを取り除く費用が、それらを残している設置責任と比較される時に、最近よりありがたくない問題を立ち上げている。

ノートルダム大学によって導かれた科学者のチームがミシシッピ川とその支流の区間を支配しているハクレン(silver carp)がミシガン湖に侵入していたことを公開した火曜日に、それらの問題はより緊急になった。連邦政府は、コイを締め出すために2200万ドルをChicago SanitaryとShip Canalにおける電氣的バリアーに使ったが、それは明確に十分ではなかった。追加の3300万ドルは来年の作業になっている。

アジアコイ(Asian carp)の侵入が「取り返しのつかない害」を起こすであろうという理由で2つの主要な閘門をすぐに閉鎖するために、6つの五大湖の州とカナダのオンタリオ州の連合は最高裁判所からの仮処分を求めた。法廷は、今月命令を与えることを断ったが、それは、すこしでもそれらを閉じるかどうかのより広い問題について来月訴訟事件適用書を受け入れるであろう。

陸軍工兵隊の役人は、閘門を閉鎖するには早すぎると言う。彼らは、ミシガン湖に侵入しているアジアコイ(Asian carp)にまた別の障壁を与える3番目の電氣的バリアーを構築することに集中している。「それは根本的な解決策ではないけど、ハクレンとビッグヘッドカープ(silver and bighead carp)の動きを妨げるためにはよいツールである。」とVincent Quarle大佐(陸軍工兵隊のシカゴ地区の司令官)は言った。

しかし、障壁は絶対確実でなく、専門家は、繁殖可能な集団を確立するために、どれだけのアジアコイ(Asian carp)がそれを通る必要があるであろうかを言うことが難しいと言う。

南部のナマズ養殖家は、彼らの池で藻類を食べさせるために 1970 年代に、ハクレンとビッグヘッドカープ(silver and bighead carp)を中国から輸入しはじめた。何匹かの鯉は洪水の間に逃げ、今、その魚は完全にイリノイ川の優占種になっているので、コミュニティはそれらをターゲットとして毎年、釣りトーナメントを開催している。

米国の役人は何年もの間、外来種と戦ってきたが、影響が明確になった時に、努力は近年強化された。例えば、かつて五大湖に限定されたゼブラ貝とシマロバムール貝(zebra and quagga mussels)は、西に移動していて、重要なダムでシステムを詰まらせている。

ワシントン D.C.地域で、州と連邦の役人は、タイワンドジョウ(snakehead)(ポトマック川に侵入し、グレート・フォールズから下流の川 70 マイルを占める食欲な魚)と戦っている。科学者は 2004 年にこの魚を最初に検出した。今、数千匹がそこを泳ぎ、アメリカニシダマシ(American shad)とエールワイフニシン(alewife herring)のような在来種にとって脅威となっている。

「世間の注目をしばらくの間問題であったことに引きつけるためには、ドラマチックな証拠を、時々、必要とする」と Tom Strickland (内務省の fish and wildlife and parks(魚類・野生生物と公園の次官補)は言った。

これらの侵入の影響を明確にするのに数年かかるが、研究者は、全国的にそれらが 1 年にほぼ 1200 億ドルの環境面の損失と被害を起こすと見積もっている。ハクレンとビッグヘッドカープ(Silver and bighead carp)は、ものすごい食欲を持っていて、在来の魚が依存する膨大な量の食物を食べ、Fish and Wildlife Service(内務省魚類・野生生物局)の上級生物学者 Art Roybal は、ニシキヘビを、危惧種の渉禽類の鳥と絶滅に瀕しているキーラーゴモリネズミ(Key Largo wood rat)を飲み込んでいた「不整地走行の食事マシン」と呼ぶ。

Sam Hamilton (内務省魚類・野生生物局の部長)は、外来種を「たぶん、私達の在来の野生生物への私達の国で単独で最も大きな脅威」と呼んだ。しかし、深まる懸念にもかかわらず、何人かは、米国が、手ごわい環境の敵にまさに屈服しはじめていると言う。

「それは、私に、私達が否認されるように思われる」と、Lindsay Chadderton (Nature Conservancy's Great Lakes Project(自然管理委員会の五大湖プロジェクト)の水棲の外来種のディレクターでありミシガン湖でアジアコイの遺伝子指紋を発見した研究者の 1 人)は言った。「私達が問題の深刻さを理解した時には、それは遅すぎる。予防が、これに対処する唯一の費用効果が高い方法である」。

論争は、競争的な経済分析を駆り立てた。たくさんの商品を出荷するためだけでなく排水を流すために運河システムを使うイリノイ州は、閉鎖される閘門が地域の経済に「破壊的な影響を及ぼし」、ボートによる救助作業を妨げるであろうと、その最近の最高裁判所の訴訟事件適用書要約において主張した。そして、American Waterways Operators(アメリカカ水上輸送業者協会)(国のタグボート、引き船、およびはしけ業界に関する業界団体)は、ミシガン湖へのミシシッピ川の閘門の閉鎖が、供給業者に数千万ドルとたぶん数千人の雇用のコストをかけるであろうということを見積もっている。

閘門を閉鎖するための法廷闘争を導いているミシガンの司法長官 **Mike Cox** は、それらの数値は、五大湖の年に 70 億ドルの漁業の崩壊の可能性に比べてあまり大きくないように見えと言った。彼の最高裁判所の訴訟事件適用書要約において、彼は、工兵隊が、「イリノイ川からミシガン湖へのビッグヘッドカープとハクレン(**bighead and silver carp**)の流域間の移動の防止は、生態学的及び経済的な惨事を避けるために最高である」とリポートの中で論述したことに言及した。

[Nancy Sutley](#)(White House Council on Environmental Quality(ホワイトハウス環境問題委員会)の議長)、および数人の上級のおバマ政府関係者は、アジアコイ論争の解決の仲介を試みるために、2月8日にミシガン知事 [Jennifer M. Granholm](#) (民主党)、ウィスコンシン知事 **Jim Doyle** (民主党)、およびイリノイ知事 **Pat Quinn** (民主党)と会合を持つであろう。

「数を低くしておくことはキーである」と **Phil Moy** (ウィスコンシン大学の **Sea Grant Institute** の漁業及び外来種の専門家)は言った。彼は、電氣的バリアーのようなステップは時間稼ぎではあるが、「しかし、それは最終的な解決ではない」と言った。「私達は、この生態学的及び水文学的な分離に向かわなければならない」。

彼らの芝生に侵入している魚に焦点を合わせたミシガン州人にとって、反応は十分にすぐ来ることができなかった。「私がミシガンに行くすべての場所で、誰もがそれについて話す」と、知事のために彼の入札において現在、州を縦横無尽に動いている **Cox** (共和党)は言った。「医療よりそう、経済の外に進んでいる他の何よりもそうで、それはここにみんなの心とくちびるにある。私は、それが週単位の問題であったと思った。それは月単位の問題になった」。

HP アドレス

<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/01/30/AR2010013000939.html?hpid=moreheadlines>